様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：２４５０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０８９０

研究課題名（和文）アンデス文明形成期の社会モデル再検討：神殿壁面装飾の分析を中心に

研究課題名（英文）A Re-examination of the Social Model of the Andean Formative Period through the Analysis of the Temple Friezes

研究代表者
芝田　幸一郎（Shibata, Koichiro）

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：５０５７１４３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：アンデス文明形成期（前3000年～前50年頃）の後半における宗教的指導者層の台頭過程を探るため、ペルー北部アンカシュ県海岸地方ネペーニャ川下流域に位置するワカ・パルティーダ神殿遺跡の第三次発掘調査を実施した。神殿頂上で多彩色壁画を２面発見し、これまでの調査で発見済みの壁画群と併せて、描かれたモチーフや建築上の位置関係などを分析した。その結果、神殿外壁には三層の世界観とそこに介入する宗教的指導者が表現されており、壁画製作が指導者の社会的台頭と結びついていた可能性が見えてきた。また各種出土遺物の一部も分析し、建築の更新活動に伴う儀礼や、海産物の流通についての新知見も得られた。

研究成果の概要（英文）：The Middle and Late Formative Periods in the Central Andes witnessed a substantial social differentiation represented by the emergence of religious leaders. The third season (2013) of our excavation project at Huaca Partida archaeological site on the lower Nepena valley revealed additional mural paintings. The analysis of these lately unearthed iconographic evidences, along with the formerly discovered friezes from the same site, allow us to elucidate that the Andean tripartite cosmology and the shamanic leader's intervention were materialized in the ceremonial architecture, and thus to speculate about the relationship between the mural production and the rise of leaders.

研究分野：アンデス考古学

キーワード：アンデス　ペルー　形成期　壁画　世界観　文明

１．研究開始当初の背景
（１）社会複合化と個人や小集団の実践
先スペイン期アンデスの初期文明形成プロセスは各国の考古学・人類学者が長年取り組んできたテーマであり、報告者はそのプロセスの中でとりわけ個人や小集団の実践に注目している。考古資料の制約などから、これまでの研究では焦点を絞り込むことが難しく、多くの研究者が形成期における諸活動の主体を「社会」「文化」「政体」といった大きな単位を設定せざるをえなかった。
　本研究では、次に述べる稀有な発見によって上記制約を超えた分析が可能になることが見込まれた。

（２）アンデス考古学史上重要な資料価値
①継続調査による高い実現可能性
代表者は2004年､2005年の二期にわたって、学術振興会特別研究員奨励費を用いた発掘調査を実施し、ワカ・パルティーダ遺跡の中段部分にて一連の壁画を発見していた。それらは、規模、年代、良好な保存状態の希少性から各種メディアのみならず内外の専門家にも注目されるものであった。2013 年に実施した第三次発掘では、ほぼ確実にさらなる壁画を発見することが見込まれていた。

②形成期図像研究上の意義
アンデス文明形成期における地域間関係の研究の多くが、宗教の拡散との関係で論じられてきた。しかしながら、主要な論拠の１つである神殿の壁画は、資料数そのものが少ないため、ワカ・パルティーダの壁画資料の充実は、それ自体で形成期の図像研究および地域間関係研究の進展に貢献することが期待された。

③製作者・製作指揮者らへの接近
これまでに代表者らが発見した壁画の中には、僅かではあるが仕上げ塗りの筆遣いや描画順序、下地を均す際に遺された掌の圧痕等を観察できるものもあった。このような製作技法に関する資料を充実させ、他遺跡との比較分析への道を拓くこと、さらには上記①の成果と総合することで、研究背景１．（１）の課題へ効果的に取り組むことができると予想された。

（３）基礎的資料・研究の問題
アンカシュ県周辺の海岸地方の形成期に関しては、編年や生業といった基礎的研究がとりわけ遅れている。この問題に関して、代表者は 2002 年からのセロ・ブランコ遺跡発掘と 2004 年からのワカ・パルティーダ発掘によって既に一定の成果をあげているが、これを充実・精緻化していくことが望ましい状況にあった。

２．研究の目的
以上の研究背景から、以下の目的が設定された。

①壁画資料の充実
第三次発掘調査を実施する。この際、過去２回の発掘成果から判断して、ほぼ確実に壁画が出土する地点に集中する。

②壁画の分析と地域間関係
出土した壁画を、図像や技法などから多角的に分析する。その結果を他地域の資料と比較することで神殿を介した地域間関係を解明する。

③基礎資料の充実
各種出土資料の分析を通じて編年の精緻化をはかる。とりわけ時期毎の特徴を精査することは、上記地域間関係の解明にも寄与する。

④総合
壁画の分析を中心とした成果を総合し、形成期における社会複合化・差異化を、発掘資料に基づいた宗教的指導者の台頭過程との関係の中で考察する。

３．研究の方法
（１）発掘調査
ペルー北部のアンカシュ県海岸地方に位地するワカ・パルティーダ遺跡にて、第三次発掘調査を実施する。その際、これまでの調査によって複数の壁画の存在が確実視されている神殿南西部の外壁部分に集中する。

（２）出土資料の分析
①壁画の分析
図像：先行研究によって形成期図像の最も顕著な特徴の１つとして指摘されている視覚的メタファーに焦点をあてる。メタファーの作法や組合せに地域差があり、なおかつ遠く離れた神殿間に高い共通性が見られる事例も確認したためである。この分析から、壁画およびその図像に関連する儀礼を司る人物達の地域間交流について考察する。

技法：壁画の下地となる粘土の重ね方や混和剤の種類、顔料塗付の方法（刷毛、指など）、輪郭を描く描線や刻線の順序などを確認する。前回までの調査では、素手を斜めに動かして下地を均した痕跡や、顔料塗布の順序を一部確認している。詳細に記録して比較分析の基盤を作る。70 年以上前の調査で多数の壁画資料が報告されており、かつ既に代表者自身も発掘調査を行っている別の神殿遺跡セロ・ブランコとの比較も行う。

顔料：壁画の下地となる粘土や、彩色に用いられた顔料の成分分析を行う。素材の流通関係から、製作者集団を介した地域間交流に迫ることを目的とする。この分析は専門家に依頼する形をとる。当初は、既に自ら発掘調査を行った２遺跡間の比較から始める。

②出土遺物の分析
土器等の人工物に関しては、第一次・第二次発掘出土遺物の分析成果に追加する形で代表者が分析に従事する。動植物遺存体などの同定に関してはペルー国立トルヒーヨ大学生物考古研究所等外部の研究機関に依頼する。

（３）文献調査
近年のペルーは急速な経済発展を享受しており、宅地造成、鉱山開発、農地拡張等による遺跡破壊が進行している。一方、ペルー文化省は、事前の考古学調査を事業者に対して義務付けており、このような緊急調査に由来する報告書や論文が急増している。そこで、これらに目を通して関連情報を抽出する。また、植民地時代初期のエスノヒストリー研究や周辺地域民族誌から、壁画や宗教的指導者に関する情報を抽出する。

４．研究成果
（１）壁画の発見
2013 年の発掘調査で、かねてよりの見込み通り新たに壁画を発見することができた。形成期中期（前 1100～前 800 年頃）の神殿南西隅の頂上で長方形プランの部屋状構造物があり、その外壁の東面と南面それぞれにレリーフを伴う多彩色壁画が遺されていた。南面は幅７m、推定高３m（現存部は１m弱）で、高度に様式化された猛禽類が描かれていた。東面は幅５m、推定高３m（現存部は１m弱）で、宙に浮いた超常的人物が描かれていた。いずれも上から三分の二は損失しているが、後述するように壁画「群」としての研究への道を拓くものであり、想定を超える成果へとつながった。一方、ペルーの監督官庁による調査許可証発行の遅れに伴う調査期間の大幅短縮や、今回発見した壁画の保存状態が思わしくなかったことなどから、壁画の製作技法等に関するデータ収集・分析・研究は今後のプロジェクトへと先送りすることになった。

（２）壁画群としての図像
これまでは個々の壁画を分析対象としてきたが、今回追加発見された２面の壁画によって、第一次・第二次発掘調査で発見された複数の壁画との関係が紐解け、壁画群としての研究への道が拓かれた。神殿外壁南面は、最上段に空の住民である猛禽類、三段目に地上のジャガーが描かれていたことが判明した。四段目（最下段）は未発掘であるが、ここには地下ないし水面下を象徴する生物が埋もれていると推測される。今後の調査によって確認できれば、少なくとも三層からなる世界観が、神殿南壁全面を用いた全高 10mを超える壮大な壁画複合として表現され、周辺住民に威容を示していたことになる。一方、神殿正面にあたる外壁東面は、今回発見された最上段には宙に浮いた超常的人物が描かれているが、一段下の外壁ではやや超常的表現の少ない人物が地に足を着けている。さらに下方の外壁は未発掘であるが、より超常的要素の少ない人物像が埋もれているものと思われる。チャビン・デ・ワンタル等他遺跡の事例を参考に、幻覚剤を用いた儀礼によって宗教的指導者が幻覚の中で徐々に変貌する過程が表現されていると類推されるのである。今後の発掘調査によって、建築内の配置と関連する形で、当時の世界観やその中における宗教的指導者の位置づけを解明し得る。今のところ同等の条件を備えた遺跡は他に確認されておらず、ワカ・パルティーダ遺跡の調査だけが稀有な実現可能性を有している。

（３）宗教的指導者の台頭に関する新知見
前述した三層の世界観に関しては、ワカ・パルティーダよりさらに断片的ではあるが、他遺跡からの報告も若干数ある。しかしワカ・パルティーダの南壁の場合、空の猛禽類と地上のジャガーの中間の段に、宗教的指導者と思しき図像が挟み込まれていた。このような人物像の挿入例は、少なくともワカ・パルティーダより古い形成期早期・前期の遺跡には見られない。形成期前期から中期にかけてのどこかで、既存の世界観に宗教的指導者が挿入されたと思われる。これを裏付けるかのように、ワカ・パルティーダ神殿では、壁画の塗り替えや、古い建築そのものを埋めてその上に新しい神殿を築く「神殿更新」が観察された。世界観を修正する機会は、神殿を新築する時のみならず、増改築時にもあったことになる。形成期後期になると各地で金製品などの奢侈品を多数副葬した宗教的指導者の墓が作られるようになることから、物質化された世界観の修正と、指導者層の台頭という社会変化が連動した可能性も見えてくる。

（４）神殿更新に伴う儀礼活動
形成期中期のワカ・パルティーダ壁画群が埋められ、その上に形成期後期の巨石神殿が築かれたことは、第一次・第二次調査によって明らかにされていた。今回の調査では、壁画群が埋められる際、そのすぐ手前に人糞を散布したことが認められた。エスノヒストリー研究等から古代アンデスにおける人糞の意味を検討すると、人糞散布は壁画やその内容への冒涜的行為ではなく、むしろ豊穣・繁栄との結びつきで理解すべきかもしれない。

（５）貝類採取地と流通ルート
ネペーニャ川の北岸に位置するワカ・パルティーダ遺跡と、北岸に位置するセロ・ブランコ遺跡では、出土する貝類の傾向がやや異なる。他国の研究者が発掘した周辺の形成期３遺跡の資料と比較検討し、採取地や流通ルートの変遷が見えてきた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3　件）
① Shibata, Koichiro 2016 （印刷中）. Cosmología tripartita en Huaca Partida, valle bajo de Nepeña. *INDIANA* 33(2)（査読有）
② Shibata, Koichiro 2014. Centros de "Reorganización Costeña" durante el Periodo Formativo Tardío: Un ensayo sobre la competencia faccional en el valle bajo de Nepeña, costa nor-central peruana. *Senri Ethnological Studies* 89: 245-260.（査読有）
③ Ikehara, Hugo, Fiorella Paipay and Koichiro Shibata 2013. Feasting with Zea Mays inthe Middle and Late Formative North Coast of Peru. *Latin American Antiquity* 24(2): 217-231.（査読有）

〔学会発表〕（計　8　件）
①芝田幸一郎 2016 年 1 月 31 日「海岸の神殿からみた権力形成」『権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築』プロジェクト成果 公開シンポジウム、キャンパスイノベーションセンター東京（東京都港区）.
②芝田幸一郎、ビクトル・バスケス、テレサ・ロサレス 2015 年 12 月 6 日「ペルー北部ワカ・パルティーダ遺跡第３次発掘出土の自然遺物」『古代アメリカ学会』第 20 回研究大会、東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）.
③SHIBATA, Koichiro 2015 年 7 月 14 日 Las practicas constructivas en Huaca Partida, en Simposio 72 “ Tradiciones tempranas de arquitectura publica de los Andes Centrales ” 55 Congreso Internacional de Americanista, San Salvador (El Salvador).
④芝田幸一郎、ビクトル・バスケス 2014 年 12 月 6 日「ペルー北部ワカ・パルティーダ遺跡の神殿更新について」古代アメリカ学会第 19 回研究大会、名古屋大学東山キャンパス（愛知県名古屋市）。
⑤Shibata, Koichiro and Delicia Regalado 2014 年 8 月 22 日 Implicancias de los hallazgos de la temporada 2013 en el sitio formativo de Huaca Partida, valle de Nepena. 1er Congreso Nacional de Arqueologia Peruana, Lima (Peru).
⑥ Shibata, Koichiro 2014 年 4 月 17 日 ?Manipulacion cosmologica? implicaciones de nuevos hallazgos en Huaca Partida, valle de Nepena. Mesa Redonda de Arqueologia, Antropologia e Historia de Ancash. Museo del Novecento, Milan (Italia).
⑦芝田幸一郎 2014 年 1 月 26 日「古代アンデスの神殿と世界観：ワカ・パルティーダ遺跡の壁画をめぐって」みんぱく公開フォーラム『古代文明の生成過程―西アジアとアンデスの比較』、JP タワーホール＆カンファレンス（東京都千代田区）。
⑧芝田幸一郎 2013 年 12 月 7 日「ペルー北部ワカ・パルティーダ神殿遺跡の第３次発掘調査」古代アメリカ学会第 18 回研究大会、山形大学小白川キャンパス（山形県山形市）。

〔図書〕（計　1　件）
芝田幸一郎 2015.「第 5 章アンデス文明における神殿と社会の複雑化-ワカ・パルティーダ壁画群の分析から」関雄二編『古代文明アンデスと西アジア-神殿と権力の生成』pp.209-238．朝日新聞出版，東京．

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
（１）ホームページ等　なし

（２）一般向け講演等
①芝田幸一郎 2014 年 12 月 11 日「アンデスから古代文明を考える」、長田俊樹・芝田幸一郎共同講演会『古代文明観を見直す ―インダス文明とアンデス文明の最新研究より』、神戸市外国語大学（兵庫県神戸市）。
②芝田幸一郎 2013 年 12 月 14 日「古代アンデスの壁画を掘る - ワカ・パルティーダ神殿に描かれた三千年前の世界」、希有の会、駐日ペルー大使館（東京都渋谷区）。

（３）その他（代表者が執筆したもの）
①芝田幸一郎 2014.「ペルー共和国ネペーニャ谷のワカ・パルティーダ遺跡」『考古学研究』60(4)：116-118.
②芝田幸一郎 2014 年 4 月 9 日「南米ペルーの神殿遺跡発掘から　古代アンデスの世界観明らかに」『西日本新聞』朝刊第 9 面.

（４）その他（本プロジェクトに関する報道等）
①2014 年 3 月 1 日 「古代アンデス権力誕生探れ」『日本経済新聞』第 40 面（文化欄）.

②2013 年 12 月 2 日 NEWS ZERO 番組内 ZEROhuman『日本テレビ』.
③2013 年 11 月 30 日「人」『神戸新聞(朝刊)』第２面.
④2013 年 11 月 23 日 「古代神殿に巨人の壁画」『神戸新聞（朝刊)』第 32 面.
⑤2013年11月2日「Huaca Partida: un lugar ceremonial para los antiguos peruanos」『El Comercio』第 20 面.
⑥2013 年 10 月 30 日 「アンデス神殿の怪人」『朝日新聞（関西版、朝刊)』第１面.
⑦2013 年 10 月 25 日 「古代神殿のレリーフ」『読売新聞（朝刊)』第２面.
⑧2013年9月15日「Un grupo de arqueologos revela los nuevos relieves de Huaca Partida」『El Comercio』第 24 面.

６．研究組織
(1)研究代表者
芝田　幸一郎（SHIBATA, Koichiro）
神戸市外国語大学・外国語学部　准教授
研究者番号：50571436